日本建築学会九州支部研究報告
第 58 号　2019 年 3 月

市民に認知されている地域の象徴的な景観の特性
-大分県佐伯市景観計画策定に関する研究その 1-

正会員○濵田菜波[*1]　同　姫野由香[*2]　同　西悠太[*1]
同　林孝茂[*1]　準会員　寺尾勇[*3]　同　藤田晃亘[*3]

7.都市計画－6.景観と都市デザイン
景観計画・景観整備　景観管理　まちなみ

1　はじめに

1-1　研究の背景と目的

現在各地域には様々な地域特有の景観が，自然，歴史，文化などによって構成されている。また，2004 年には景観を保護するための景観法が施行された。その後，全国各地でこのような地域特有の景観を保全する取り組みが行われている。

大分県佐伯市は, 平成 17 年に旧佐伯市と 5 町 3 村が合併した九州最大の面積の市である。国立国定公園を有する市域内各地区では特徴的な景観が形成されているが，これらの景観を維持し良好な景観を創造していくための景観計画や景観形成基準は定められていない。

そこで本研究では，これから策定予定の景観計画に市民の意向を反映すべく，佐伯市を象徴する景観や，市民が保全したいと考えている景観の特徴を明らかにする。そして，景観計画における，届出対象行為と関係する，地域の景観を象徴する景観要素を特定することを目的とする。

1-2　研究方法

本稿その 1 では，外来者と市民を対象に実施した，景観ワークショップの結果をもとに，市民が考える地域の象徴的な景観を特定する。ワークショップでは外来者と市民から，「良好な景観」と「課題のある景観」についての意見を収集した。その結果より，佐伯市の象徴的な景観とその景観の要素を明らかにする。

2　研究対象地

佐伯市は, 城下町が広がる旧佐伯市を中心とした「街エリア」と，旧蒲江町，米水津村，鶴見町，上浦町からなる南東部海岸地域の「浦エリア」，旧宇目町，弥生町，直川村，本匠村からなる，南西部山間地域の「里エリア」に大きく分けて捉えることができる。

本研究では，これらの「街・浦・里」の代表的な景観の保全に関する意見を収集するため,「街エリア」は城下町地区,「浦エリア」は蒲江地区,「里エリア」は宇目地区を対象とする。

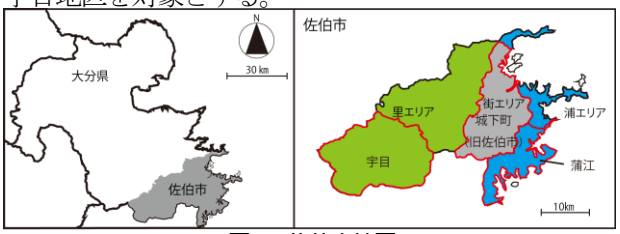


図 1　佐伯市地図

3　外来者視点での地域の景観を象徴する要素の特定

3-1　外来者ワークショップの概要

外来者ワークショップは，佐伯市以外の市町村在住の大学生14名を対象に行った。各地区内を1時間程度，地図を用いながら自由に散策,「良好と感じた景観」と「課題があると感じた景観」の画像を撮影し, その「場所」と「理由」を写真ごとに挙げた。

表 1　外来者ワークショップ概要表

		外来者街歩きワークショップ
概要	日程	2018年5月20日(晴)、21日（曇）（各10:00～16:00)
	場所	佐伯市　蒲江地区、宇目地区、城下町地区
	参加人数	大学生14名
	内容	佐伯市職員に地区の概要について説明を受けた後、それぞれで地区の「良好と感じた景観」と「課題があると感じた景観」を撮影しその理由を記した。

3-2 外来者視点での城下街地区の景観を象徴する要素

外来者ワークショップで撮影された画像 180 枚（城下町 59 枚，蒲江 50 枚，宇目 71 枚）を，「景観」ごとに分類した（表 2a,3a,4a)。分類結果から，意見が集中[注 1)]した景観を，外来者が象徴的と捉えた景観とした（表 2b,3b,4b)。また，その景観が選ばれた理由についても集計した（表 2c,3c,4c)。最後に，抽出した象徴的な景観が写りこんでいる画像から,『景観要素』をすべて挙げた（表 2c,3c,4c)。

【城下町地区】では，全画像 59 枚中,「山際通り」の画像が 15 枚と最も多く，次いで「船頭町」の画像が 10 枚であった（表 2 a-①)。このことからこの 2 つが象徴的な景観と考えられる（表 2 b-①②)。

The characteristic of landscape understood by citizen.
-A study on the formulation on landscape planning of Saiki City, Oita Prefecture Part1-
HAMADA Nanami, HIMENO Yuka, NIU Miao, ANDO Mayo, HAYASHI Takashige, NISHI Yuta

「山際通り」の選定理由では，「歴史を感じることができる」という意見が 15 件中 6 件と最も多かった（表 2 c−①）。これは山際通りが「佐伯市歴史的環境保存地区[注2)]」に指定されており，一定の景観形成基準がすでに整備されていることに起因していると考えられる。

また，「船頭町」の選定理由でも「歴史を感じる通りである」という意見が 10 件中 6 件と最も多かった（表 2 c−②）。これは，船頭町に，古くから残る商店や旅館が立ち並ぶ通りがあるためだと考えられる。

これらの象徴的な景観の景観要素を抽出した結果，「山際通り」の景観要素は『山岳』，『森林』，『街並み』，『道路』，『建造物』，『歴史遺物』であった。「船頭町」については，『建造物』，『道路』，『歴史遺物』，『森林』であった（表 2c−①②）。

3-3 外来者視点での蒲江地区の景観を象徴する要素

【蒲江地区】では，全画像 51 枚中，「山上から見る集落」の画像が 14 枚と最も多く，象徴的な景観と考えられる（表 3a,3b−①②）。その他の画像については，票が分かれ，大きな差が確認できなかった。「山上から見る集落」の選定理由では「高台から見る入江に広がる集落が美しい」という意見が 14 件中 8 件と最も多かった（表 3c−①）。これは蒲江地区が，リアス式海岸による深い入江に形成されていることに起因していると考えられる。

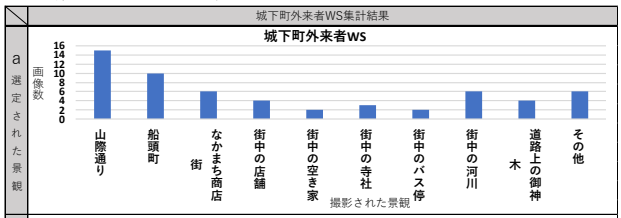
また，これらの象徴的な景観の景観要素を抽出した結果，「山上から見る集落」については，『海』，『港』，『山岳』『街並み』，『建造物』，『漁業』であった（表 3c−①）。

3-4 外来者視点での宇目地区の景観を象徴する要素

【宇目地区】では全画像 72 枚中，「里山の街並み」の画像が 17 枚と最も多く，次いで「唄げんか大橋[注2)]と豊かな自然」の画像が 8 枚であった（表 4a−①）。このことから，この 2 つが象徴的な景観と考えられる（表 4b-①）。

「里山の街並み」の選定理由では，「自然に囲まれた集落が美しい」という意見が 14 件中 9 件と最も多かった（表 4c−①）。これは宇目地区が林業や農業が盛んな地域であることに起因していると考えられる。「唄げか大橋と豊かな自然」の選定理由では「唄げんか大橋と自然が重なって美しい」という意見が 8 件中 8 件であった（表 4c−②）。

表 2　城下町外来者 WS 集計結果



b 地区の象徴的な景観

① 山際通り

② 船頭町

c 画像の選定理由

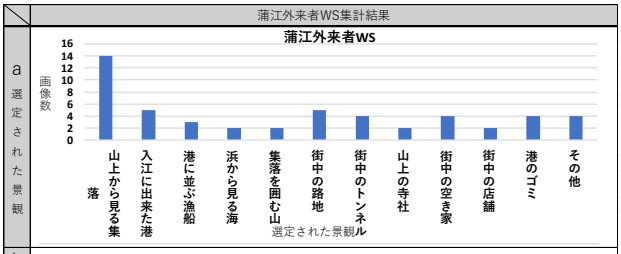
①

景観	景観要素	理由	意見数（15）
山際通	山岳・森林・街並み・道路・建造物・歴史遺物	歴史を感じることができる	6
		街並みが美しい	4
		まちが整備されている	3
		今後よくなりそう	1
		白壁が利用されていない	1

②

景観	景観要素	理由	意見数（10）
船頭町	建造物・道路・歴史遺物・森林	歴史を感じるとおりである	6
		街並みがきれい	1
		人工物ばかりで寂しい	1
		佐伯の歴史に興味を持った	1
		川があった時の様子を感じる	1

表 3　蒲江外来者 WS 集計結果



b 地区の象徴的な景観

① 山上から見る集落

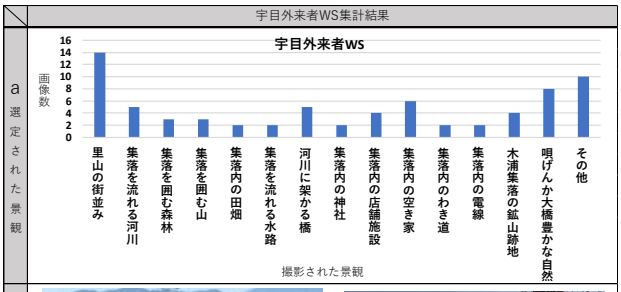
② 青龍山公園から見る集落

c 画像の選定理由

①

景観	景観要素	理由	票数（14）
街並み	海・港・山岳 街並み・建造物・漁業	高台から見る入り江に広がる集落が美しい	8
		港町を一望できる	2
		海、山、建物の距離が近い	2
		建物の特徴が様々で蒲江らしい	1
		暗い印象を受けた	1

表 4　宇目外来者 WS 集計結果



b 地区の象徴的な景観

① 自然に囲まれた集落

② 唄げんか大橋と豊かな自然

c 画像の選定理由

①

景観	理由	票数（14）	景観要素
里山の風景	自然に囲まれた集落が美しい	9	山岳・森林・河川・街並み・農業・林業
	産業を見ることができる	3	
	まちの特徴が一目でわかる	1	
	豊かな自然が感じられる	1	

②

景観	景観要素	理由	票数（8）
唄げんか大橋と豊かな自然	山岳・河川・森林・工作物	唄げんか大橋と自然が重なり美しい	8

これらの象徴的な景観の景観要素を抽出した結果,「自然に囲まれた集落」の景観要素は,『山岳』,『森林』,『河川』,『街並み』,『農業』,『林業』であった（表 4c-②)。「唄げんか大橋と豊かな自然」については『山岳』,『河川』,『森林』,『工作物』, であった（表 4c-①)。

4　市民視点での地域の景観を象徴する要素の特定

4−1　市民ワークショップの概要

市民が考える「良好と感じる景観」,「課題があると感じる景観」の特徴を把握するため, 第 1 回市民景観ワークショップ[注3)] を実施した。

表 5　市民ワークショップ概要表

	市民ワークショップ			
概要	実施地区	蒲江	宇目	城下町
	実施場所	蒲江市民公民館	宇目市民公民館	三余館
	実施日時	6月26日（火） 19:00~21:00	6月28日（木） 19:00~21:00	7月15日(日) 14:00~16:00
	参加人数	市民16人学生6人	市民14人学生6人	市民23人学生7人
	内容	市民4~5人を1班とし、「良好と感じる景観」を青の付箋、「課題があると感じる景観」を赤の付箋、「その他の提案、意見」を黄色の付箋に記入し、地図上の該当箇所に添付した。		

4−2　市民視点での城下町の景観を象徴する要素

市民ワークショップで得た意見を,「景観」ごとに分類した（表 6a,7a,8a)。分類結果から, 意見が集中[注 1)] した景観を, 市民が象徴的と捉えた景観とした（表 6b,7b,8b)。また, その景観への意見についても分類した（表 6c,7c,8c)。最後に, 抽出した象徴的な景観への意見からわかる『景観要素』をすべてあげた（表 6c,7c,8c)。

【城下町地区】では, 108 件中,「城山の風景」に対する意見が 28 件と最も多く, 次いで「山際通り」に対する意見が 17 件であった（表 6a-①)。このことから, この 2 つが象徴的な景観と考えられる（表 6b-①②)。「城山の風景」に対する意見では「市街地から見る城山の風景が良い」が 28 件中 9 件と最も多かった（表 6c−①)。「山際通り」に対する意見では,「山際通りの景観が良い」という意見が17件中6件と最も多かった。また,「山際通り」における「課題があると感じる」意見の中では,「空き家の清掃をするべき」, という意見が 5 件,「白壁の整備を進めるべき」という意見が 3 件であった（表 6c−②)。これらの象徴的な景観の景観要素が出された結果「城山の風景」の景観要素は『山岳』,『森林』,『街並み』であった（表 6c−①)。「山際通り」については『街並み』,『建造物』,『森林』,『歴

表 6　城下町市民 WS 集計結果

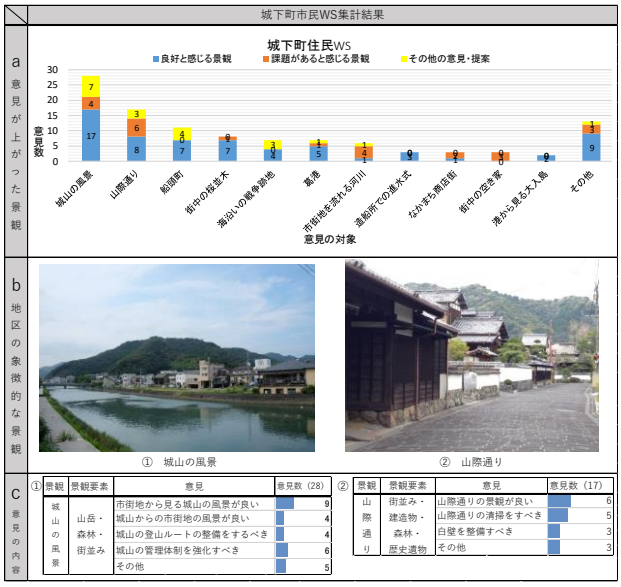


表 7　蒲江市民 WS 集計結果

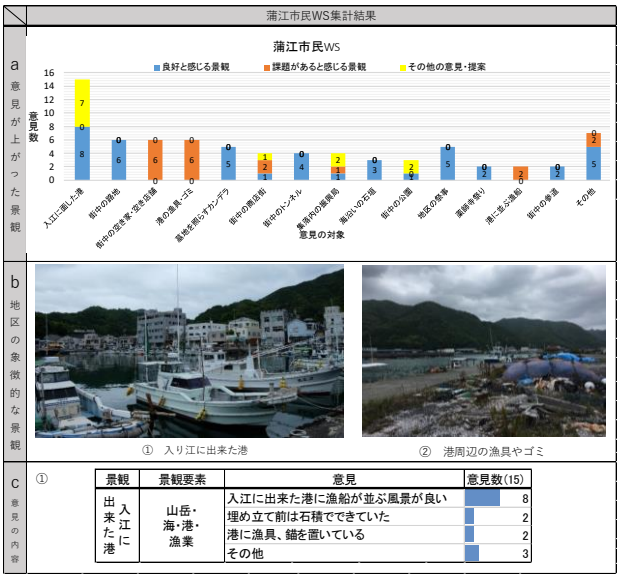
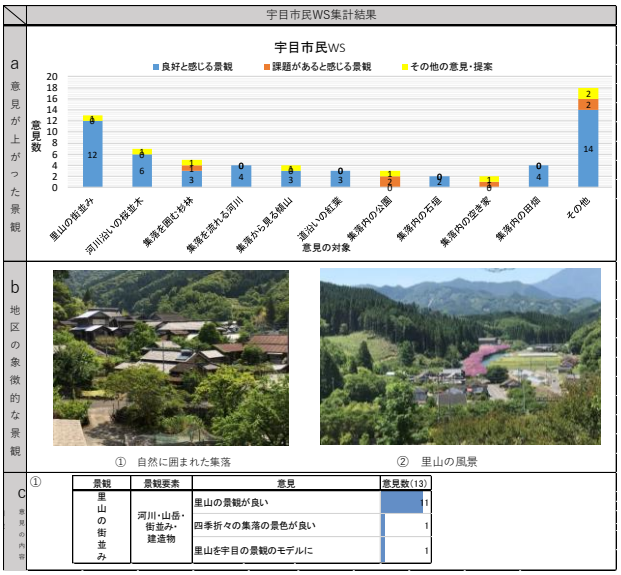


表 8　宇目市民 WS 集計結果



史遺物』であった（表 6c−②）。

4−3　市民視点での蒲江地区の景観を象徴する要素

【蒲江地区】では，74 件中，「入江に出来た港」に関する意見が 14 件と最も多く，蒲江地区の象徴的な景観と考えられる（表 7a-①）（表 7b-①②）。次いで「街中の路地」，「街中の空き家・空き店舗」「港の漁具・ゴミ」に対する意見が 6 件であった（表 7a-①）。その他の意見については票が分かれ，大きな差が確認できなかった。しかし，「街中の空き家・空き店舗」と「港の漁具・ゴミ」についてはすべての意見が「課題があると感じる」意見であった（表 7a-①）。

「入江に出来た港」に対する意見では「入江に出来た港に漁船が並ぶ風景が良い」という意見が 14 件中 7 件と最も多かった（表 7c-①）。「街中の空き家・空き店舗」に対する意見では，「空き家・空き店舗が増えている」という意見が 6 件中 5 件であった。「港の漁具・ゴミ」に対する意見では，「海岸にゴミが多い」という意見と「海岸に置かれた漁具を整理してほしい」という意見が 3 票ずつであった。蒲江地区の市民は『空き家・空き店舗』と『漁具・ゴミ』について危機感を持っており，何らかの対策が必要になると考えられる。

これらの象徴的な景観の景観要素が出された結果，「入江に出来た港」については，『山岳』，『海』，『港』，『街並み』『漁業』であった（表 7c-①）。

4−4　市民視点での宇目地区の景観を象徴する要素

【宇目地区】では 69 件中，「里山の街並み」に関する意見が 11 件と最も多かった（表 8a-①）。このことから，「里山の街並み」が宇目地区の象徴的な景観と考えられる（表 8b-①②）。

「里山の街並み」に関する意見では「里山の風景が良い」という意見が 11 件中 9 件と最も多かった（表 8c-①）。また，宇目地区では「課題があると感じる」意見については 69 件中 8 件であったが，具体的な意見については意見が分かれ，大きな差が確認できなかった。

これらの象徴的な景観の景観要素が出された結果，「里山の街並み」については『河川』，『山岳』，『街並み』，『建造物』であった（表 8c-①）。

5　総括

本研究では，佐伯市の城下町地区・蒲江地区・宇目地区において，佐伯市を象徴する景観や市民が保全したいと考えている景観を特定した。

城下町地区では，外来者が考える象徴的な景観は「山際通り」と「船頭町」であった。また，市民が考える象徴的な景観は「城山の風景」と「山際通り」であった。「山際通り」は，外来者からも市民からも城下町地区の象徴的な景観として抽出された。城山については，外来者から意見が出なかったが，市民からは，最も多く上がった意見であり，市民にとって城下町地区の景観において重要だと考えられる。

蒲江地区では，外来者が考える象徴的な景観は「山上から見る集落」であった。また，市民が考える象徴的な景観は「入江に出来た港」であった。蒲江地区では，外来者からの意見と市民からの意見は異なるものであった。しかし，どちらも入江に集落や港が形成されている景観の骨格に関する意見であった。このため，蒲江地区の景観においてはこのような骨格を守ることが重要であると考えられる。

宇目地区では，外来者が考える象徴的な景観は「里山の街並み」と「唄げんか大橋と豊かな自然」であった。また，市民が考える象徴的な景観は「里山の街並み」であった。「自然に囲まれた集落」は外来者からも市民からも，象徴的な景観として抽出された。これは宇目地区内の，各集落で盛んな林業や農業に関わる田畑や，杉林を見ることができるためだと考えられる。宇目地区の景観においては，このような地域の産業を守ることが重要であると考えられる。

今後は，本研究で得られた佐伯市の象徴的な景観を，整備・保全していくために，届出対象行為や，それを実現する行為規制の在り方について検討していく。

【補注】

注1)　全体の件数の、11%件以下のものについては象徴的な景観として抽出しなかった。

注2)　「佐伯市歴史的環境保存条例 [1]」は平成 17 年に施行されている。これにより，城山とその麓を固めた給人屋敷及びそれに連なる徒士の屋敷が「佐伯市歴史的景観保存地区」に指定され，保護されている。

注3)　「唄げんか大橋」は北川ダムに架かる橋で，橋のたもとに道の駅があり，観光の拠点になっている。

注4)　ワークショップでは，市民から出た意見を付箋に記し，地図上に添付した。また，地図には出た意見をもとに，視点場や景観の範囲を記入した。

【参考文献】

1)　佐伯市歴史的景観保存条例
2)　篠原修・景観デザイン研究会　「景観用語辞典」，1998

*1　大分大学大学院工学研究科博士前期課程　大学院生　Doctoral Course ,Oita Univ.
*2　大分大学理工学部創生工学科　助教　博士（工学）　Research Associate,Dept. of Architecture, Faculty of Eng,Oita Univ., Dr.Eng
*3　大分大学工学部福祉環境工学科　学部生　Undergraduate Student,Oita Univ.